

エコニュース さって



第 5 2 号
平成 25 年 12 月 18 日
さって市民環境ネット
TEL48-0331

「行幸湖浮きウキフェスタ 25」の実施報告 報告：八木 ～平成 25 年度は約 2,000 人の方に来場いただきました～

平成 25 年 10 月 27 日(日)の秋晴れの絶好のイベント日和のなか実施した「行幸湖浮きウキフェスタ 25」には多くの皆様にご参加いただきまことにありがとうございました。

このフェスタは、水辺を再生する「浮島づくり」やカヌー・ドラゴンボート体験など沢山のイベントを用意しての開催となりました。

今回浮島づくり体験に参加いただいた方は 172 名(前年比約 100 名減)、そのうち小学生以下の参加は 25 名(前年比約 50 名減)でした。参加応募締切り時の台風接近の情報の影響もあり前年と比べ大幅に人数が少ない結果となりました。

製作した浮島は 9 基で 10 時過ぎから作りはじめ 13 時半過ぎには行幸湖にすべて浮島を進水させることができました。その他のイベントも 26 団体が参加してブース展示・販売、バンド演奏、ちんどんパフォーマンス、ゆるキャラマスコット、スタンプラリー等の楽しいイベントが展開されました。今回から新たに「日本工業大学」や「石巻ショップ希りん」、「道の駅ごか」など参加していただき、飲食や企業 PR ブースなどよりにぎわいを増しました。また、新たな試みとして浮島づくりの様子やイベント会場内の紹介をインターネット中継で行うなど日本工業大学生の若い力も大いに発揮していただくことができました。

後日、行われた反省会を兼ねた実行委員会では①各ブースの風対策や浮島進水時の見物者への安全措置の強化 ②浮島づくりへの子供達の参加呼びかけの工夫 ③イベント会場内のレイアウトの工夫や準備方法の改善等の意見がだされ、より一層安全で楽しいイベントにするよう参加団体が協力しあい取り組みを行う事が意識合わせされました。

浮島づくりに掛かる費用はコスモ石油エコカード基金の協賛をいただき 3 年間続けてきましたが、今回で協賛が最終年となるので来年に向けた協賛先などの確保が必要となります。またイベント自体の運営は県や市町、近隣企業、学校や地域活動協力団体などに支えられ盛り上げてきましたが、イベント継続にあたり会場管理を担っている幸手権現堂桜堤保存会の皆様のご支援とご協力があつてこそ成し遂げる事ができるものと思っております。引き続き環境イベントにご協力いただく参加団体などのより一層の支援とご協力をよろしくお願い申し上げます。



老若男女の浮島づくり



ごかりん、コバトン、さっちゃんと一緒にハイポーズ

エコライフDAY2013（夏）取組結果

報告 エコライフDAY実行委員会 中山

テレビはフィリピン・レイテ島を襲った史上最大の台風の凄さと苦しんでいる人々を連日報道していました。私たちはともすると熱帯地方の他人事として見がちですが、この巨大台風が地球規模での気候変動（温暖化）により発生し、今後日本を襲う危険性も指摘されており温暖化にもっと関心を払う必要があります。温暖化にどのように対処するか、各国が参加するCOP19（国連の気候変動枠組条約国）がポーランドで開催され、温暖化の原因となるCO₂削減を話し合っていました。先進国グループ、途上国グループそして各グループ内においても各国の主張は国益というエゴの繰り返しで、有効な対策が打ち出せなく次世代には大変心配なことです。

県は1990年（京都議定書締結年）と21年後の2011年を比較した「市町村別温室効果ガス排出量」を先ごろ発表しました。幸手市の場合は次表の通りです。

温室効果ガス排出量（幸手市）

（単位：千トン-CO₂）

| | 1990年 | 2003年 | 2009年 | 2011年 |
|----------|--------|--------|--------|--------|
| 温室効果ガス合計 | 207.3 | 296.8 | 253.7 | 288.6 |
| 家庭部門割合 | 22.3 % | 22.6 % | 24.2 % | 24.2 % |

本表が示しますように、排出量は1990年以降増加してきましたが2003年をピークに徐々に減じました。しかし2009年よりまた反転し、2011年では'90年に比較し39.2%の増となった。この内、家庭部門（民政）の割合は、一貫して増加し2011年では24.2%と大きな割合を占めています。今後更なる削減努力が必要です。

また、当市の1990年比排出量の増加（39.2%）は大きく、市町村ランク別の成績も中位以下であり、全体として改善が必要と思います。

今夏実施した「エコライフDAY2013・夏」の取組結果がまとまり、市役所HP（環境課）に発表されており、その一部を紹介します。

○ 参加者総数：6,499人 対人口比率 12.1 %

昨年の参加者数は7,140人（13.4%）であり、今年は640人の減少。

○ CO₂削減量：4,468 Kg ブナの木約148,940本が1日に吸収するCO₂量に相当。

○ 参加者数の内訳

児童・学生（小、中、高） 36.2 %

父兄を含む一般 63.8 %

○ 取組状況

項目別の上位3項目（ゴミだしルールに従った、冷蔵庫の扉はすぐ閉めた、お湯や水を流しっぱなしにしない）の実施率は90%以上で、略全員が実施。

下位3項目（自転車・電車・バス等の利用、家電の主電源を切る、風呂の残り湯利用）は、実施率30%以下。

○ 参加者数は、東日本大震災のあった2011年をピークに徐々に減じており、エコライフへの人々の関心を継続させていきたい。

第2回市民環境講座「環境見学会」結果

報告：高久、澤村

トモエ乳業本社工場及び協栄産業小山（メカニカルリサイクル）工場の見学

今回の環境見学会は、古河市に本社工場のあるトモエ乳業と小山市の協栄産業小山工場を見学しました。参加者は一般参加者30名とスタッフ2名（環境課）です。市役所に9時に集合し、バスで古河に向け出発し、途中、車中で牛乳に関する予習をしながらトモエ乳業には予定通り10時着きました。先ず担当者から会社概要（関連会社を含めて）の説明があり、トモエの名前と会社のマーク（3つトモエ）の由来は近隣の神社（雀神社）にあやかったもので製造+販売+消費者の3つの願いが込められているとのことでした。

創業者である中田社長は経営理念の「産業の中に文化あり」を実践するために1994年に新工場を建設し、安全衛生面でHACCP認定（総合衛生管理製造過程）も受け、2007年には製品の品質保証システム規格（ISO 9001）の認証を取得しました。また「医食同源」と安心して安全な健康の源をお届けすることをモットーにしています。

昭和16年に設立し、現在は最新鋭のコンピュータ管理による完全オートマチック流れ作業の中で従業員240名が牛乳、加工乳、乳飲料、ジュース、ヨーグルトなどの製造を行い、小中学380校や1都7県のCOOPへ納品、そしてOEM（相手先商標製造製品）による販路拡大などで売上高300億円の生産を誇り、単独工場では”日本一”であるとのことでした。また、増産体制の為に隣接地に第2工場を増設し、本年7月から稼働とのことでした。また、工場建物の中には中田社長の牛乳に対する特別な思い入れで作られた



ようこそトモエ乳業へ！歓迎の挨拶



世界から集めた酪農の農具（牛乳博物館内にて）



130℃、2秒間の高熱超高速殺菌装置の説明

「牛乳博物館」が併設されてました。自ら約50年の歳月をかけて、世界150ヶ国から収集した牛の爪の化石を始め牛乳に関する貴重な資料が展示してありました。その後、会議室に移り、食生活の中で牛乳を摂ることがいかに身体に大切かビデオを拝見しながら、美味しい作り立ての濃縮牛乳をご馳走になりました。

トモエ乳業を後にして、昼食のため「道の駅しもつけ」へ向かって出発しました。途中、4R（Refuse、Reduce、Reuse、Recycle）の復習とペットボトルの概要について予習をしました。道の駅では好みの昼食をとり周囲を散策しました。

「道の駅しもつけ」を12時半に出発し、協栄産業に向いました。途中、ペットボトルの歴史、特に「ペットボトルの自主設計ガイドライン」について予習しました。協栄産業小山工場は食品向け製品生産工場であり、また世界の最先端技術工場であることからセキュ

リティに厳しく、安全・安心と環境重視から ISO 9001 及び ISO 14001（環境マネジメントシステム）認証工場であるということでした。

見学は社長が東京で早朝急用があって到着が遅れたため、社長室スタッフから「ようこそ！！幸手市環境見学会の皆様」に始まり、会社概要、会社のリサイクルの取組みなどの説明、会社案内ビデオ上映（ペットボトルの分別収集～再生フレーク化工程～再生ペレット化工程）、国内循環の意義、メカニカルリサイクルの安全性の説明がありました。

見学会開始後、30分ほどして社長が見えて、話し手が社長に交代して、資源の少ない日本でいかに日本国のため、世界のために何をすべきかを考え、大企業に入ったが自分の志と違うとして退職し、自ら事業を取り組んでオイルショックで挫折しましたが、奮起してそして“皆様に協力していただいて栄える会社になれば”という気持ちから、社名を「協栄産業」として1985年にこの会社を創立したとのことでした。バブル崩壊、円高を乗り越え、そして現在ある資源は後世に残し、一度利用したプラスチックを新しく蘇らせるプラスチックリサイクル、すなわち都市油田の活用に取り組んでいる、その柱がペットボトルのメカニカルリサイクルである、そしてこのリサイクルは日本の容器包装リサイクル法、識別表示法、自主設計ガイドラインを市民が守ってくれて、市民との固い絆の和で結ばれていることを信じ、リサイクル会社として“地球の環境と資源を守る”という使命を全うして参りたい、として話を終えました。その後、窓ごしに工場内の全景、機械・装置と再生フレーク～再生ペレット～リサイクルボトル（Bottle to Bottle）の説明がありました。

活発な質疑応答もあり、協栄産業から幸手市民の環境への取組みレベルや関心の高さが理解されました。

なお、参加者の感想には社長の話が長すぎたことや世界最先端技術の話で難しかったとの意見もありましたが、一方で社長の起業家としての志と信念の強さ、熱弁に感動した人が多か



ようこそ！幸手環境見学会の皆様！



古澤社長の熱弁



メカニカルリサイクルした樹脂を利用したPETボトル

ったようです。帰りのバスの中で、ペットボトルメカニカル工場見学の復習を兼ねてPETとは？を勉強し、両社の見学結果、次年度の見学希望先のアンケート、最後に久保田会長からの参加のお礼の挨拶があって定刻通り午後4時半に市役所に帰着しました。

【会員募集中！】環境保全活動と一緒にやっていただく方を募集しております。

是非、貴方も参加しませんか。〔さって市民環境ネット〕

★問い合わせ・申し込み ★ 久保田 修(代表)まで TEL 0480-42-1264

幸手の環境活動グループ：幸手権現堂桜堤保存会、権現堂川地域環境保全協議会、幸手自然愛護会、幸手ひがし幼稚園、エコ・グリーン幸手、くらしの会、上高野婦人会、倉松探検隊、幸手中央ロータリークラブ、すこやか「食」の会、子育て支援ねっとわーく、いきがい・はなみずきの会(いきがい大学伊奈学園20期)